

教育現場のトータル IT 化

－ 生徒・教職員の両側面から －

グレープシティ株式会社 レーザー事業部 福本 裕志

kouritsu@grapecity.com

<https://leyser.grapecity.com/schoolhomepage/>

キーワード：先生環境の IT 化，教務・校務システム，成績表／指導要録／調査書の作成，個人情報保護，英語学習システム，小学校英語，コンピュータ教室の有効活用

1. 学校現場のトータル IT 化

今までの日本国内における教育分野の IT 化は、主に「生徒に対するコンピュータ教育の推進」に集中し実施されてきました。その結果、全国の学校には「コンピュータ教室」「インターネット環境」が設置され、子供達が積極的にコンピュータを利用できる環境が整っています。また、通常の授業においても積極的に情報機器が取り入れられ、日本の教育分野における IT 環境は、ここ数年で大きく変化しました。

しかしながら、学校で働く先生方の環境は、IT 化が思うように進まず、欧米諸国と比較すると大きな遅れをとっているようです。

1. 1 先生環境の IT 化

先生方は、生徒達を教育する以外にもたくさんの業務を行っておられます。教室から職員室に戻った先生方は、教務関連事務（生徒の出欠管理、生徒自身の活動記録）に加え、公務関連事務（PTA 関連処理、教委などへの集計報告）などに追われておられるのではないのでしょうか。これらバックサイドの業務は、過去と比較すると増えている状況であり、生徒と実際に触れ合う時間を圧迫する原因となっているようです。

生徒の IT 環境が整いつつある今、「先生環境の IT 化」を進める事が次の新たな課題です。

一般企業が IT 化を進めるほとんどの理由は、「業務改善」、「負担軽減／工数削減」です。業務を改善することでそのミスが減らし、負担軽減や工数削減がなされる事で、その他の処理に時間を割く事ができます。先生環境の IT 化を進めることで、一般企業同様、目覚しく変わる事が予測されます。

また、あわせて先生方が IT に触れる時間が増え、生徒に情報教育を行う先生の IT に対する意識と能力が上がる事、すでに IT 化が進んだ生徒の家庭（父兄）との連携など、間接的な効果も期待出来ます。

1. 2 学校現場のトータル IT 化を提案

学校は、先生、生徒以外にも、父兄、教育委員会など様々な要素で構成されており、複雑に絡み合い、連携する事でその役割を果たすことが出来ます。私どもグレープシティ株式会社では、学校を取り巻くすべての方々を利用できる様々なソフトウェア、システムを総合サービス（サービス名：レーザーサービス）として提供しており、「学校現場のトータル IT 化」を提案しています。

私たちは、生徒、先生だけに提供するサービスだけでなく、学校と父兄をつなぐ連携サービスなどをあわせて提供する事で、学校を中心とした「よりよい学校環境」のお手伝いをさせていただきます。

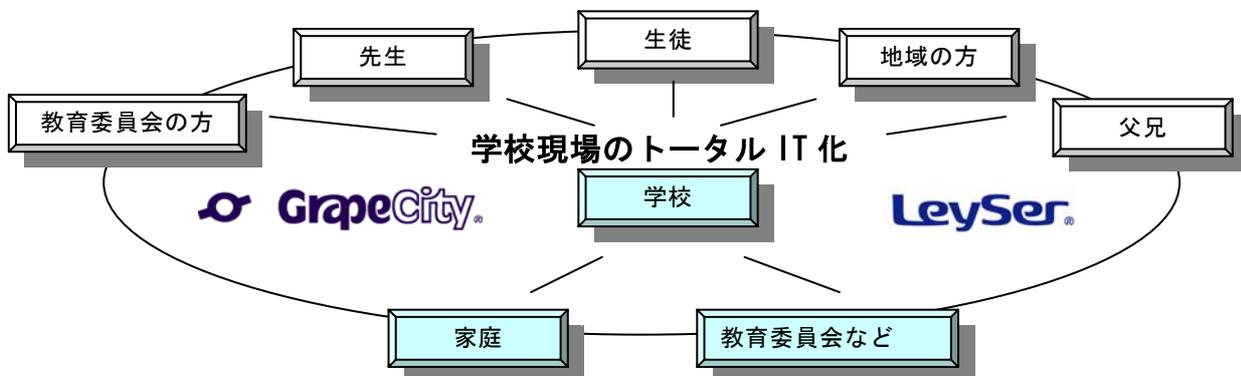


図 1 学校を取り巻く要素と学校現場のトータル IT 化

2. レーザー〈教務〉

先生環境の IT 化の第一歩。それが、教務・校務システムです。

弊社が提供するレーザー〈教務〉は、学籍管理と成績管理の負荷を大きく低減できる「先生の為のソフトウェア」です。

各種帳票（成績表／指導要録／調査書）の作成機能に加え、その他 30 種類以上の帳票自動作成、先生と学校のスケジュール管理、生徒の出欠・その他情報の記録／管理が、分かり易い画面と最新のテクノロジーをベースに、低コストで実現できます。入力データは、サーバーのデータベースで集中管理されるため、ローカルのコンピュータに個人データが保存される事もなく、個人情報保護、情報一元化、共有環境もあわせて提供します。

The screenshot shows the '総合的学習の時間の記録 - レーザーサービス' (Comprehensive Learning Time Record - Laser Service) interface. On the left, there's a sidebar for '平成16年度' (Heisei 16th year) with filters for 'クラス' (Class) and '学期' (Term). The main area displays a table of students with columns for 'クラス' (Class), '番号' (Number), '氏名' (Name), and '1学期' (1st Term) '学習活動' (Learning Activities). On the right, a '平成16年度 1学期 成績表' (Heisei 16th year 1st Term Performance Report) is shown for '4年2組1番 小林 真喜' (4th year 2nd class 1st student,小林 真喜). The report includes a table of subjects and scores, and summary statistics for '1学期' and '2学期'.

図2 レーザー〈教務〉 入力画面・出力帳票の一例

3. レーザー〈Imagine Learning English (イマジン ラーニング イングリッシュ)〉

英語の学習は早いうちから行う事が重要で、現在、全国の小学校では、「総合的学習の時間」に英語学習を取り入れる学校が増えています。また、放課後のクラブ活動にも「英会話クラブ」を設置する学校もあるようです。

レーザー〈Imagine Learning English〉は、科学的検証に基づいたカリキュラムで、英語のリスニング力、スピーキング力を高める今までにない画期的な「実践型英語教育システム」です。絵本、クイズ形式を豊富に取り入れ、英語を楽しいゲーム感覚で繰り返し学ぶ事が出来ます。

生徒の進み具合により、システムが自動補正される機能や、生徒個人のレポート機能も備えていますので、授業を行う先生方の負担もあわせて軽減されます。

高価な LL 教室は導入が難しいと言われていたようですが、コンピュータを利用した低コスト型の本システムは、各学校にすでに導入されたコンピュータ教室の有効的活用も実現可能です。

The image shows two parts of the Imagine Learning English software. On the left, a colorful illustration of a monkey holding oranges with the text 'On Tuesday I get tangerines.' and a large pink letter 'A' with an ant character below it. On the right, a '個人レポート' (Individual Report) for '渡辺 悠弘' (Watanabe Yūhiko) in '1年2組' (1st year 2nd class) taught by '永野先生' (Nagano Sensei). The report includes a bar chart titled 'レベル確認テストおよび音熟度確認テスト結果' (Level Confirmation Test and Fluency Confirmation Test Results) comparing 'レベル確認テスト' (Level Confirmation Test) and '音熟度確認テスト' (Fluency Confirmation Test) across '音素の認識' (Phoneme Recognition), '単語' (Vocabulary), '語彙' (Vocabulary), and '会話' (Conversation). Below the chart are tables for '音素の認識' (Phoneme Recognition) and '語彙' (Vocabulary) with columns for '音素の種類' (Phoneme Type) and '正解/合計' (Correct/Total), and '品詞' (Part of Speech) and '習得済み/学習済み' (Acquired/Learned).

図3 レーザー〈Imagine Learning English〉 画面・個人レポートの一例

■お問合せ：グレープシティ株式会社 レーザー事業部 Email: kouritsu@grapecity.com
 仙台北社：022-777-8210 関東支社：048-222-1200 大阪支店：06-6222-2560 名古屋営業所：052-586-6930